

2015年3月期第1四半期決算の概要

(2014年4月～6月)

2014年8月7日

東レ株式会社

目次

I. 2015年3月期第1四半期決算の概要

2015年3月期第1四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産	(P6)
設備投資額・減価償却費・研究開発費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析	(P17)
主要子会社収益状況	(P18)

II. 2015年3月期連結業績見通し

2015年3月期連結業績見通し	(P20)
セグメント別業績見通し	(P21)
上期セグメント別営業利益の期初見通しとの差異	(P22)

I . 2015年3月期第1四半期決算の概要 (2014年4月～6月)

2015年3月期第1四半期連結損益概要

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減
売上高	4,027	4,486	+459 (+11.4%)
売上原価	3,259	3,608	+349 (+10.7%)
売上総利益	768	878	+110 (+14.3%)
(売上高総利益率)	19.1%	19.6%	+0.5 ポイント
販売費及び 一般管理費	588	663	+75 (+12.8%)
(売上高販管費比率)	14.6%	14.8%	+0.2 ポイント
営業利益	180	215	+35 (+19.3%)
(売上高営業利益率)	4.5%	4.8%	+0.3 ポイント
営業外収支	20	9	-11
経常利益	200	224	+24 (+12.1%)
特別損益	▲ 2	▲ 7	-5
税前利益	198	218	+19 (+9.7%)
四半期純利益	133	147	+15 (+11.0%)

単位: 億円

為替レート
<円/US\$>

(14/3 1Q) → (15/3 1Q)

期中平均 : 98.8 → 102.2
 期末 : 98.6 → 101.4

<円/ユーロ>

(14/3 1Q) → (15/3 1Q)

期中平均 : 128.9 → 140.1
 期末 : 128.5 → 138.3

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(14/3 1Q) → (15/3 1Q)

期中平均 : 100.8 → 106.1

(注) 3月期決算会社は4~6月の業績、12月期決算会社は1~3月の業績を連結

営業外収支

億円

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減
営業外収益	52	48	-4
受取利息及び配当金	15	18	+2
持分法による投資利益	22	21	-1
雑収入	15	10	-5
営業外費用	▲ 32	▲ 39	-7
支払利息	▲ 13	▲ 15	-2
雑損失	▲ 19	▲ 24	-5
営業外収支	20	9	-11
金融収支	2	3	+1

(注)収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

特別損益

億円

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減
特別利益	5	1	-4
有形固定資産売却益	2	0	-1
投資有価証券売却益	1	0	-1
出資金売却益	-	0	+0
受取保険金	2	-	-2
特別損失	▲ 6	▲ 7	-1
有形固定資産処分損	▲ 6	▲ 5	+1
関係会社事業損失	-	▲ 2	-2
その他	▲ 0	▲ 0	-0
ネット特別損益	▲ 2	▲ 7	-5

(注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

資産・負債・純資産

億円

	14年3月末	14年6月末	増減
資産合計	21,197	21,545	+348
流動資産	9,204	9,657	+453
有形固定資産	7,812	7,728	-84
無形固定資産	1,001	971	-30
投資その他	3,180	3,189	+9

	14年3月末	14年6月末	増減
負債合計	11,751	12,480	+730
流動負債	5,966	5,625	-341
固定負債	5,785	6,855	+1,070
純資産合計	9,446	9,065	-381
有利子負債残高	6,542	7,431	+890
D/Eレシオ	0.76	0.90	+0.14

設備投資額・減価償却費・研究開発費

億円

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	特記事項
設備投資額	210	214	+4	東レ:46、連結子会社:168
減価償却費 ー)	180	185	+5	東レ:57、連結子会社:127
振替・除却等	205	▲ 114	-318	
有形固定資産増減	235	▲ 84	-319	
研究開発費	131	144	+13	

主な設備投資:

東レ

CFA(Toray Carbon Fibers America, Inc.)

CFE(Toray Carbon Fibers Europe S.A.)

炭素繊維生産設備

TAK (Toray Advanced Materials Korea Inc.): PPS(ポリフェニレンサルファイド)樹脂生産設備

セグメント別売上高・営業利益

単位: 億円

	売上高			営業利益		
	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減
繊維	1,531	1,793	+261 (+17.1%)	103	105	+2 (+2.1%)
プラスチック・ケミカル	1,134	1,205	+71 (+6.3%)	43	57	+14 (+32.0%)
情報通信材料・機器	575	611	+35 (+6.2%)	45	50	+5 (+10.2%)
炭素繊維複合材料	244	378	+134 (+55.1%)	25	46	+20 (+79.7%)
環境・エンジニアリング	388	343	-45 (-11.7%)	2	▲ 2	-5 (-)
ライフサイエンス	123	123	-0 (-0.3%)	7	5	-2 (-28.0%)
その他	32	34	+2 (+7.0%)	2	3	+1 (+50.0%)
計	4,027	4,486	+459 (+11.4%)	227	262	+35 (+15.4%)
調整額				▲ 47	▲ 47	-0
連結	4,027	4,486	+459 (+11.4%)	180	215	+35 (+19.3%)

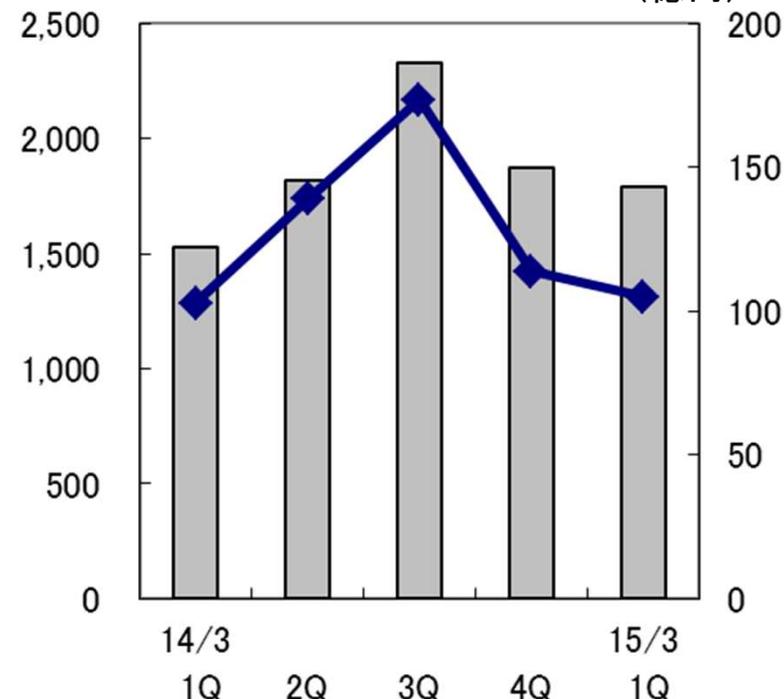
セグメント別業績(繊維)

単位: 億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	278	270	-8	(-2.9%)
	国内	709	731	+22	(+3.1%)
	海外	545	792	+247	(+45.4%)
	計	1,531	1,793	+261	(+17.1%)
営業利益	東レ	47	34	-13	(-28.6%)
	国内	18	16	-2	(-10.3%)
	海外	45	64	+19	(+41.0%)
	修正	▲ 8	▲ 9	-1	
	計	103	105	+2	(+2.1%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



国内: 衣料用途は回復の兆しはあるものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあり、出荷は弱含みで推移。産業用途は、自動車関連用途向けをはじめ堅調に推移。また、国内事業全般に原燃料価格上昇の影響を受けた。

海外: 欧州需要の低迷や中国内需の伸び悩みの影響を受けたが、東南アジアや中国のテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを進め、また自動車関連用途向けや新興国における衛生材料向けの出荷が堅調に推移。なお、前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴う費用増等の影響があった。

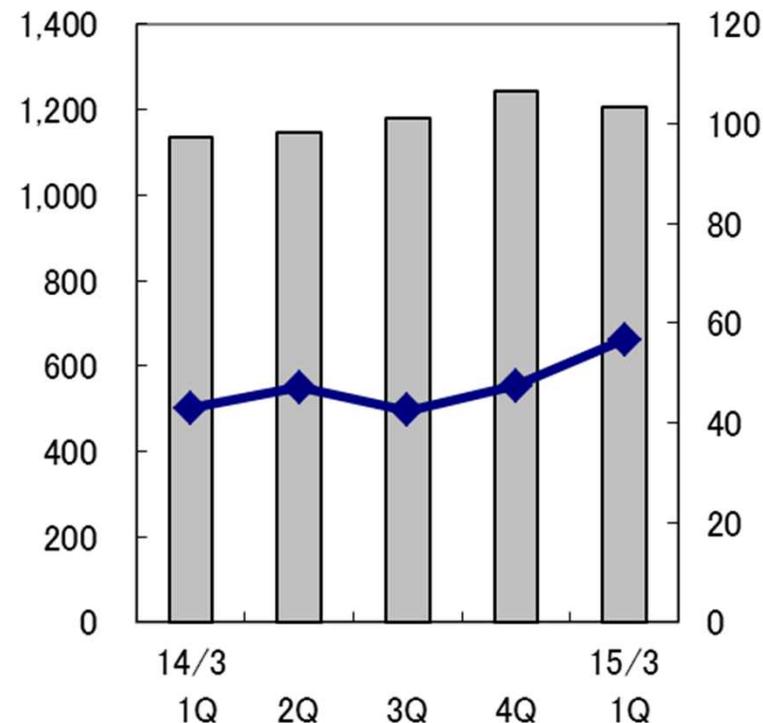
セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

単位:億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	207	217	+10	(+5.0%)
	国内	436	437	+1	(+0.2%)
	海外	491	551	+60	(+12.2%)
	計	1,134	1,205	+71	(+6.3%)
営業利益	東レ	1	5	+4	(+338.1%)
	国内	22	23	+1	(+2.6%)
	海外	19	31	+12	(+62.5%)
	修正	1	▲ 2	-3	
	計	43	57	+14	(+32.0%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



樹脂: 国内では消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は限定的で、全体として堅調に推移。海外では自動車関連用途向けを中心に出荷が拡大。

フィルム: 工業材料・包装材料の需要が欧州市場を除いて堅調に推移する中、太陽電池バックシート用途向けをはじめとして出荷が拡大。

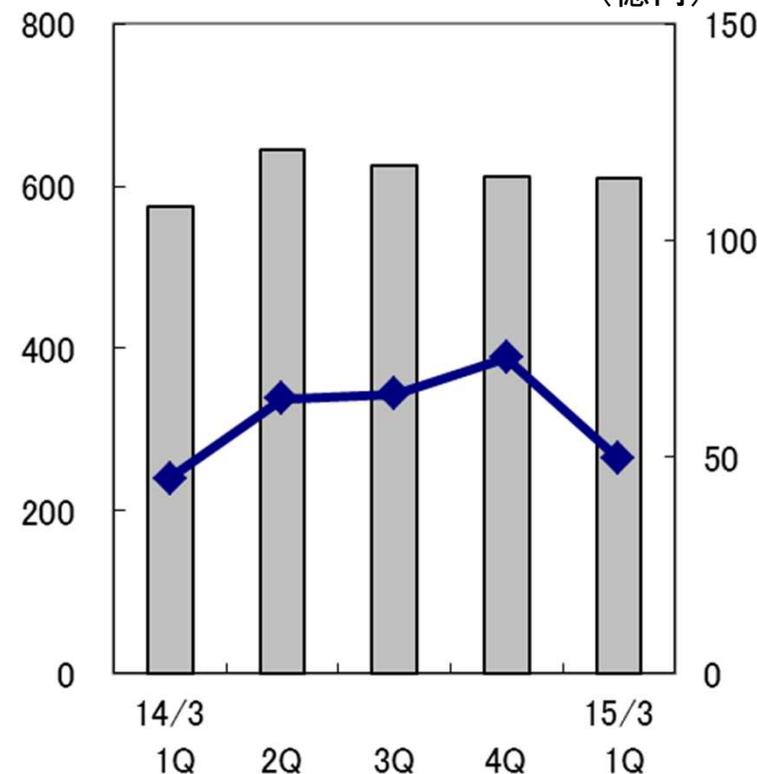
セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	194	177	-17	(-8.5%)
	国内	160	202	+42	(+26.2%)
	海外	222	232	+10	(+4.5%)
	計	575	611	+35	(+6.2%)
営業利益	東レ	25	19	-6	(-23.7%)
	国内	6	15	+10	(+173.2%)
	海外	22	23	+1	(+2.9%)
	修正	▲ 8	▲ 8	+0	
	計	45	50	+5	(+10.2%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



大型液晶パネル向けでは、パネルメーカーの生産回復と大画面化の進展に伴い、フィルム・フィルム加工品等の関連材料の出荷が増加。スマートフォンやタブレット端末の生産は一部で調整があったが、関連材料の出荷は概ね堅調に推移。一方、PDP関連材料の出荷は、主要顧客のPDPパネル生産中止の影響により減少。

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】

単位：億円

	14 / 3期 第1四半期		15 / 3期 第1四半期		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	210	36%	212	35%	+1%
電子部品・半導体・回路材料	258	45%	265	43%	+3%
記録材料	76	13%	76	12%	+1%
機器他	32	6%	57	9%	+80%
情報通信材料・機器セグメント合計	575		611		+6%

ディスプレイ材料：フィルム・フィルム加工品は堅調も、PDP関連材料の出荷が減少。

電子部品・半導体・回路材料：電子部品用フィルム・フィルム加工品や韓国子会社の回路材料が堅調に推移。

記録材料：磁気テープ向け及び熱転写リボン用フィルムは前年同期並みに推移。

機器他：液晶カラーフィルター製造装置等の販売が増加。

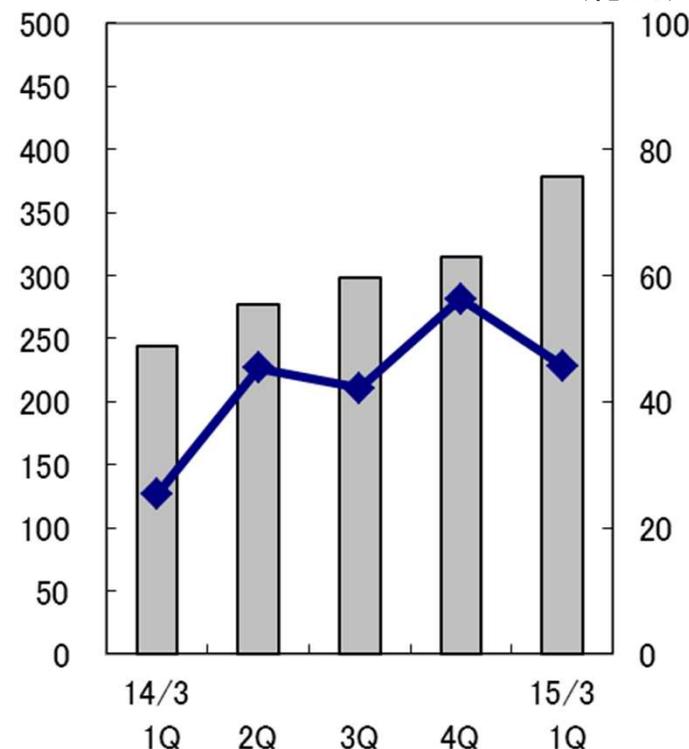
セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

単位: 億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	210	229	+19	(+9.1%)
	国内	129	147	+18	(+14.1%)
	海外	196	333	+137	(+69.6%)
	修正	▲ 292	▲ 331	-40	
	計	244	378	+134	(+55.1%)
営業利益	東レ	11	38	+27	(+242.6%)
	国内	3	2	-1	(-31.2%)
	海外	14	19	+5	(+38.9%)
	修正	▲ 2	▲ 14	-11	
	計	25	46	+20	(+79.7%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



航空機需要の拡大や圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連需要の拡大が進む中で、航空宇宙用途や一般産業用途向けに炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の出荷が拡大。また、スポーツ用途や産業用途で使用される汎用品の値戻しに取り組んだ。

なお、前期末に連結子会社化したZoltek Companies, Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴う費用増等の影響があった。

本セグメントでは、グローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】

単位：億円

	14／3期 第1四半期		15／3期 第1四半期		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	112	46%	181	48%	+62%
スポーツ	32	13%	37	10%	+17%
一般産業	100	41%	160	42%	+60%
炭素繊維複合材料計	244		378		+55%

航空宇宙用途：既存機向けの需要拡大に加え、ボーイング787向け出荷も好調に推移。

スポーツ用途：需要が回復基調となる中で、高付加価値品へのシフトを進めた。

一般産業用途：圧縮天然ガスタンク用途等を中心に出荷が堅調に推移。

前期末に連結子会社化したZoltek Companies, Inc.が増収に寄与。

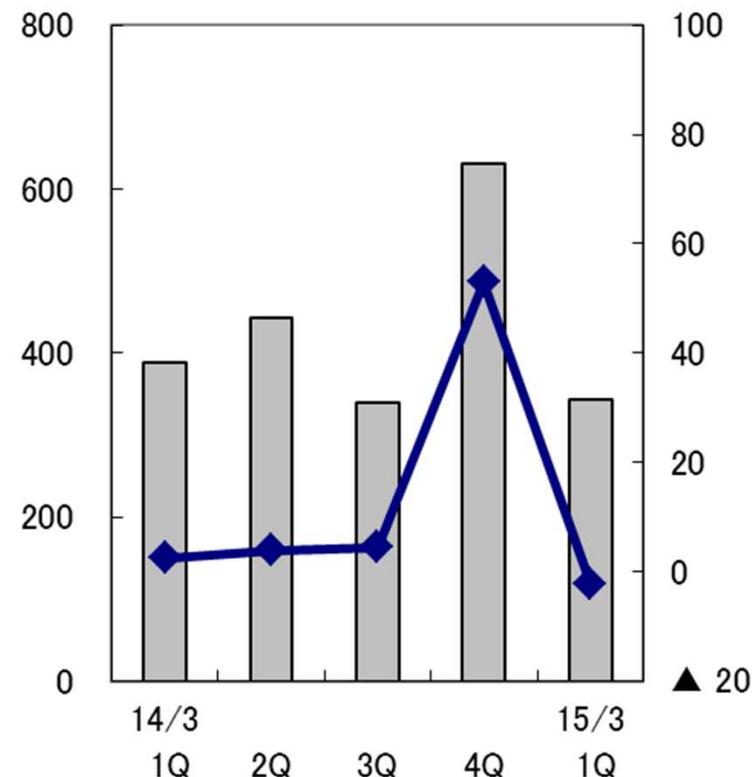
セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

単位: 億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	21	24	+4	(+17.2%)
	国内	353	276	-77	(-21.8%)
	海外	14	42	+28	(+197.5%)
	計	388	343	-45	(-11.7%)
営業利益	東レ	0	▲ 1	-2	(-)
	国内	▲ 3	▲ 4	-1	(-)
	海外	0	3	+3	(-)
	修正	5	0	-5	
	計	2	▲ 2	-5	(-)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



水処理事業 : 前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.が業績に貢献するとともに、海水淡水化案件などで出荷が増加したが、グローバルな需要が引き続き弱含みに推移する中、価格下落の影響があった。

国内 : エンジニアリング子会社は堅調に推移したが、建設子会社はマンション事業が低調に推移。また、商事子会社の一部事業については取引形態変更により売上高が減少。

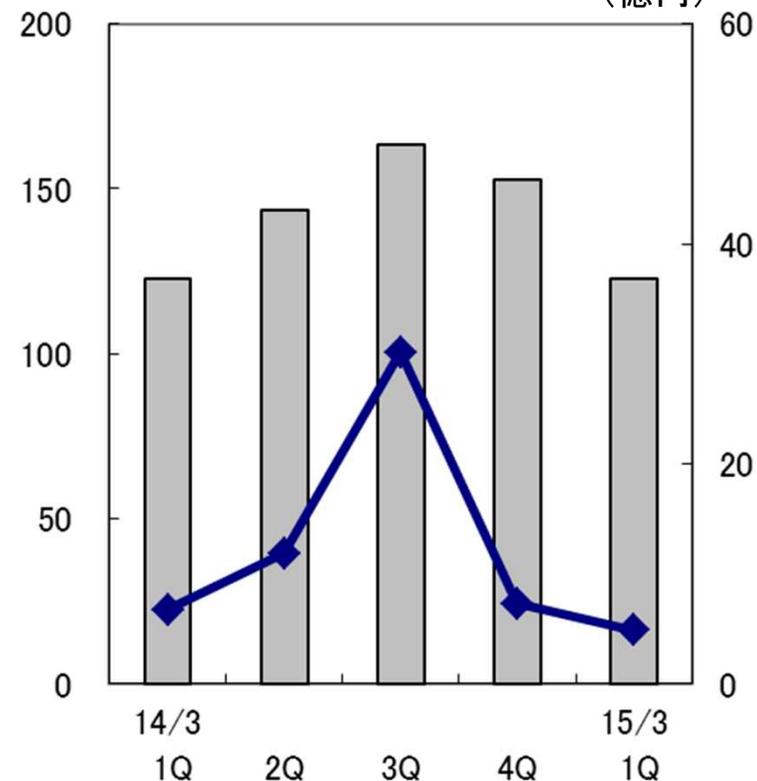
セグメント別業績(ライフサイエンス)

単位: 億円

		14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	増減	
売上高	東レ	34	29	-5	(-15.4%)
	国内	83	83	+0	(+0.4%)
	海外	6	10	+5	(+81.0%)
	計	123	123	-0	(-0.3%)
営業利益	東レ	9	5	-4	(-43.1%)
	国内	0	▲ 1	-1	(-)
	海外	▲ 1	▲ 0	+0	(-)
	修正	▲ 2	1	+3	
	計	7	5	-2	(-28.0%)

売上高
〈棒グラフ〉

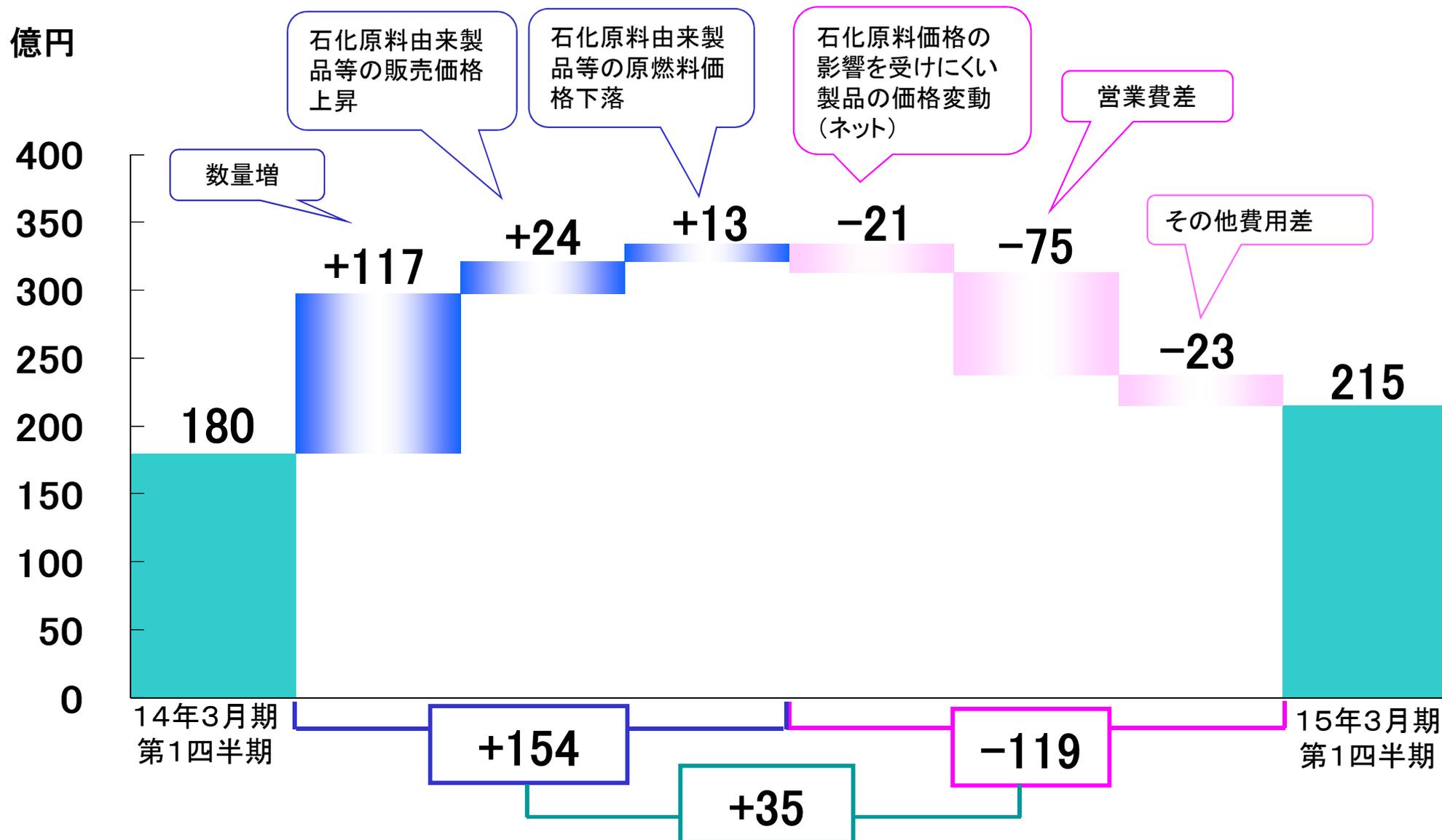
営業利益
〈線グラフ〉
(億円)



医薬事業は、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*が堅調に推移したが、天然型インターフェロンβ製剤フェロン[®]及び経口プロスタサイクリン誘導体製剤ドルナー[®]の出荷は、競合激化の影響により低調に推移。また、ライセンス収入も前年同期比で減少。医療機器事業は、ダイアライザーの国内向け出荷が堅調に推移。

* レミッチ[®]は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

営業利益増減要因分析



石化原料由来製品等とは、繊維、プラスチック・ケミカル、炭素繊維複合材料セグメントの合計値。

主要子会社収益状況

億円

	売上高			営業利益		
	14年3月期 1Q実績	15年3月期 1Q実績	増減	14年3月期 1Q実績	15年3月期 1Q実績	増減
東レインターナショナル	1,245	1,224	-22	24	20	-4
東レエンジニアリング	110	144	+34	▲8	1	+9
東レ建設	104	90	-14	3	0	-3
東レフィルム加工	101	120	+19	3	6	+3
東レ・メディカル	91	88	-3	0	▲1	-1
TAK(韓国)	282	293	+11	27	24	-3
TPM(マレーシア)	178	178	-0	6	6	-0

在東南アジア・子会社 *1	繊維	272	301	+29	6	14	+8
	プラスチック・ケミカル	204	210	+6	7	9	+2
	その他	21	22	+0	1	1	+0
	計	498	533	+35	14	24	+10
在中国・子会社 *2	繊維	348	412	+65	29	31	+2
	プラスチック・ケミカル	148	189	+40	2	7	+5
	その他	38	41	+2	▲1	1	+1
	計	534	641	+107	30	38	+8
在外・フィルム子会社 *3	プラスチック・ケミカル	233	256	+23	8	14	+6
	情報通信材料・機器	154	161	+7	20	18	-1
	計	386	417	+30	28	33	+5

* 1: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、TPJ、PFR、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

* 2: TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TICH、THK-G、TPCH-G、TPPH/TPPZ、TFH/TFZ、TBMC、TMQ、TFCC 単純合計

* 3: TAK、PFR、TPA、TFE、TFH/TFZ、TAFK 単純合計

Ⅱ. 2015年3月期連結業績見通し

2015年3月期連結業績見通し

		14年3月期 実績	15年3月期 見通し	対前年同期比 増減	
売上高	上期	8,538	10,000	+1,462	(+17.1%)
	下期	9,840	11,500	+1,660	(+16.9%)
	通期	18,378	21,500	+3,122	(+17.0%)
営業利益	上期	443	500	+57	(+12.9%)
	下期	610	800	+190	(+31.2%)
	通期	1,053	1,300	+247	(+23.5%)
経常利益	上期	465	470	+5	(+1.0%)
	下期	641	780	+139	(+21.6%)
	通期	1,106	1,250	+144	(+13.0%)
当期純利益	上期	294	250	-44	(-14.9%)
	下期	302	450	+148	(+48.8%)
	通期	596	700	+104	(+17.4%)
1株当たり 当期純利益	上期	18.03円	15.55円		
	下期	18.56円	28.09円		
	通期	36.59円	43.62円		
1株当たり 配当金	上期	5.00円	5.00円		
	下期	5.00円	5.00円		
	通期	10.00円	10.00円		

億円

備考：為替レート的前提は、100円/US\$（7月以降）、
原油価格的前提は、107.5US\$/B(DUBAI FOB)（7月以降）

セグメント別業績見通し (売上高／営業利益)

億円

		14年3月期 実績			15年3月期 見通し			対前年同期比 増減			期初見通し との差異		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	繊維	3,351	4,204	7,555	3,900	4,800	8,700	+549	+596	+1,145	—	—	—
	プラスチック・ケミカル	2,280	2,425	4,705	2,700	2,800	5,500	+420	+375	+795	—	—	—
	情報通信材料・機器	1,220	1,238	2,457	1,250	1,500	2,750	+30	+262	+293	-50	—	-50
	炭素繊維複合材料	521	613	1,133	800	800	1,600	+279	+187	+467	+100	—	+100
	環境・エンジニアリング	831	971	1,802	1,000	1,200	2,200	+169	+229	+398	—	—	—
	ライフサイエンス	266	316	582	270	330	600	+4	+14	+18	-50	—	-50
	その他	69	74	143	80	70	150	+11	-4	+7	—	—	—
	連結	8,538	9,840	18,378	10,000	11,500	21,500	+1,462	+1,660	+3,122	—	—	—
営業利益	繊維	242	287	529	240	320	560	-2	+33	+31	—	—	—
	プラスチック・ケミカル	90	90	180	110	130	240	+20	+40	+60	—	—	—
	情報通信材料・機器	108	138	246	110	190	300	+2	+53	+54	-10	—	-10
	炭素繊維複合材料	71	98	169	100	130	230	+29	+32	+61	+10	—	+10
	環境・エンジニアリング	6	58	64	15	80	95	+9	+22	+31	+10	—	+10
	ライフサイエンス	19	37	56	20	45	65	+1	+8	+9	-10	—	-10
	その他	7	13	20	10	10	20	+3	-3	+0	—	—	—
	調整額	▲ 100	▲ 112	▲ 212	▲ 105	▲ 105	▲ 210	-5	+7	+2	—	—	—
連結	443	610	1,053	500	800	1,300	+57	+190	+247	—	—	—	

上期セグメント別営業利益の期初見通しとの差異

億円

セグメント	上期営業利益期初見通し →今回見通し ()内差異	増減益要因
繊維	240→240 (±0)	・期初見通し通り。
プラスチック ・ケミカル	110→110 (±0)	・期初見通し通り。
情報通信材料 ・機器	120→110 (-10)	・スマートフォンやタブレット端末の生産が期初想定より弱含む見通し。
炭素繊維 複合材料	90→100 (+10)	・航空宇宙、スポーツ、一般産業の各用途とも需要が堅調に推移する見込み。
環境 ・エンジニアリング	5→15 (+10)	・水処理事業に加え、国内関係会社も堅調に推移する見込み。
ライフサイエンス	30→20 (-10)	・期初に見込んでいたライセンス収入が下期以降へ後ろ倒しとなる見通し。
その他	10→10 (±0)	・期初見通し通り。
調整額	▲105→▲105 (±0)	
連結	500→500 (±0)	

本資料中の2015年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。